

新ホール整備の事業者再公募に向けたヒアリング結果等について

1 ヒアリングの趣旨

令和7年5月9日から開始した新ホールの「公募型プロポーザル」について、事業者からの参加表明書の提出がなく、7月22日に中止したことを踏まえ、事業者や業界団体へのヒアリングを実施。

2 ヒアリングの結果

実施期間：令和7年7月～8月

対象者：事業者 6者、業界団体 2者

【建設業界の現状について】

- ・工事費は上昇を続けており、今後の予測がつきにくい。
- ・大手事業者は、都心の大型プロジェクトなどに注力している状況。
- ・手持ち工事が多く、より条件のよい案件を選んでいる。

【参加表明に至らなかった理由について】

- ・参加を検討していたが、要件を満たすJVが組めなかった。
- ・参加資格要件が合わず、具体的な検討まで至らなかった。
- ・資材費等が高騰する中、コスト面で厳しい。
- ・繰り返される整備計画変更へのリスクを感じる。
- ・県側の要件を満たす技術者の確保が困難。

【その他】

- ・設計施工一括発注方式以外の手法も検討してはどうか。
- ・管理運営の提案ができれば、可能性が広がるのではないか。
- ・プロポーザルの技術提案書の作成には相当の労力を要する。

3 再公募の方向性

機能的な新ホールを可能な限り早く、ローコストで整備するため、民間の知見を活かした提案を広く募集する。

- ・施設整備にあたり、工期、金額、仕様は維持。
- ・参加資格要件の緩和や、提出書類の簡素化を検討。
- ・提案に管理運営を含めることを検討。
- ・提案の質的向上を図るため、公募中に事業者との対話を実施。
- ・準備が整い次第、速やかに再公募を開始し、
審査会を経て、早期の優先交渉権者決定を目指す。